

# 糸魚川市公共施設等総合管理指針

## 個別計画

分類：レクリエーション・観光施設

第1	糸魚川ジオステーションジオパル	1P（商工観光課）
第2	白馬山麓国民休養地	5P（商工観光課）
第3	親不知ピアパーク	9P（青海事務所）
第4	権現荘・ゆとり館	13P（能生事務所）
第5	グリーンメッセ能生・大平やすらぎ館	22P（能生事務所）
第6	キャンプ場、森林公園及び観光施設	27P （能生事務所、青海事務所、農林水産課）

平成 31 年 2 月

# 第1 糸魚川ジオステーションジオパル

## 1 施設一覧

### (1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
糸魚川ジオステーションジオパル	1	1					

### (2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	建築年 (経過年数)	延床面積 m <sup>2</sup>	構造	階層
糸魚川ジオステーションジオパル	大町 1-7-47	2014 H26 (3)	1,423.66	鉄骨造	平屋

## 2 現状と課題

### (1) これまでの施設整備規模、配置状況

#### ① 設置経過

平成27年3月14日の北陸新幹線糸魚川駅開業に向けて整備し、家族で楽しめる情報発信の拠点施設として同年2月14日にオープンした。

名称は「ジオパーク」の「ジオ」と、英語で友達や仲間を意味する「パル」をあわせた言葉である。

糸魚川市の中心施設として「ジオパークやジオラマの輪が、友達や仲間に大きく広がっていく」ように期待が込められている。

#### ② 整備規模

北陸新幹線糸魚川駅高架下1階部分に整備しており、延べ床面積は1,423.66 m<sup>2</sup>と大きい。当該施設は糸魚川駅特有の施設であることから、新幹線建設工事協議の中で現在の整備規模に至っている。

館内は「ジオパーク観光インフォメーションセンター」「キハ52待合室」「ジオラマ鉄道模型ステーション」の3つのコーナーに分けている。

#### ③ 配置状況

人の流れが多い北陸新幹線糸魚川駅高架下を活用した施設であることから、市内唯一の施設である。

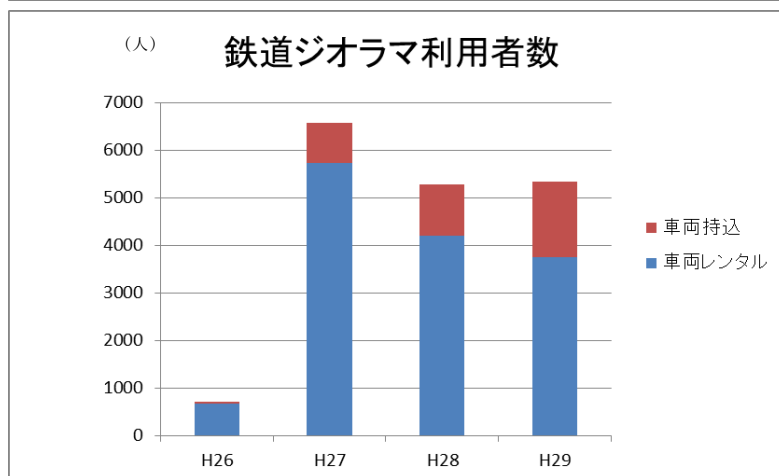
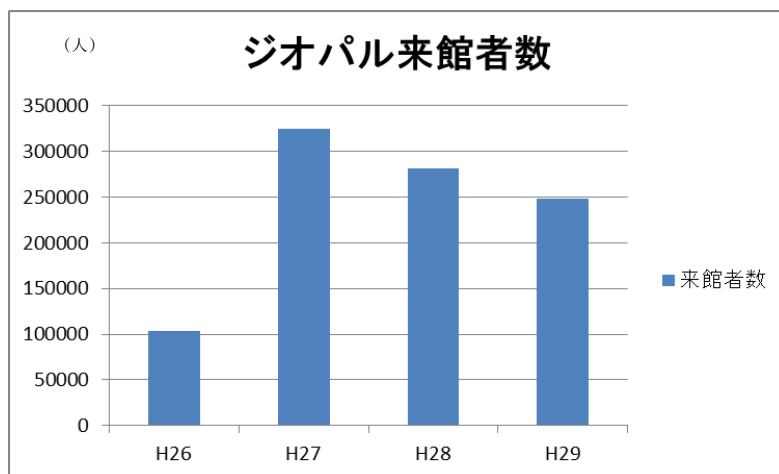
観光誘客の入り口「糸魚川駅」での配置に大きな意義がある。

## (2) 利用状況

オープン時の来館者数から減少傾向にあるものの、鉄道ジオラマの利用者数が微増傾向となっている。

特に来館者が自分のジオラマ鉄道模型の車両を持ち込み、レールレンタルでの利用（※車両持込）が増えており、リピーターが増加傾向にあると分析している。

平成 29 年度末 ジオパル累計来館者数 約 96 万人  
鉄道ジオラマ累計利用者数 約 1 万 8 千人



## (3) 課題

新しい施設であることから、当面管理面の課題は無い。

一方、運営面においては、類似施設が無いことに合わせて、今後の観光推進のため課題が以下のとおりとなっている。

- ・ 観光インフォメーションセンターとしての案内機能の強化
- ・ 施設を維持管理している一般社団法人糸魚川市観光協会の収益事業による誘客
- ・ 鉄道ジオラマのファン層の拡大
- ・ 施設展示のリニューアル（入替え）

### 3 分析と評価

#### (1) 総合管理指針による分析と評価

当市の入り口である北陸新幹線糸魚川駅の「観光インフォメーションセンター」として、機能を発揮していかなければならない施設である。

その点では、新幹線開業後の利用者（来館者）はピークから減少しているものの、順調と考えることから、設置目的に合致しており、今後も機能の充実を図ることとする。

また、施設管理コストの面については、敷地が市有地ではなく JR 借用地であるため、極端な収益事業を展開することはできないが、鉄道ジオラマの利用者数を増加させること等により、トータル的な維持管理費低減を目指すべき施設である。

#### (2) まちづくりとの関係

一般社団法人糸魚川市観光協会が施設管理していることから、観光協会が取り組む糸魚川市のDMO\*によるまちづくりとの連携により、関係性は高いといえる。

施設の展示内容が、子育て世代も楽しめる内容になっていることから、今後は鉄道ファンのほか、子どもから大人まで多様な年齢層に対応できる施設とし、まちづくりに貢献できるよう管理運営していく必要がある。

※ DMO ディスティネーション・マネジメント/マーケティング・オーガナイゼーションの略  
多様な関係者と、着地観光を経営管理する組織

#### (3) 利用者の動向

施設の利用者は、主に鉄道利用によるビジネス・観光での来館者、ジオラマ利用を目的とした来館者、遊び場を求めた市内の親子に分類される。

近年は、鉄道ファンの来館者が増加傾向にあり、首都圏や関西圏からも来訪者がある事から、今後は、ジオラマ鉄道模型の魅力を最大限に活かした情報発信により、施設利用者を増やしていく必要がある。

### 4 整備方針

#### (1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

観光の入り口としての拠点施設となっていることから、既存の施設を中心とした1か所に配置し、鉄道関連の展示や収益事業等、今後の需要に応じて、周辺に関連機能などの規模拡大（拡散）を検討する。

#### (2) 整備に関する基本的考え方

当面、同等施設の追加整備を行わず、当該施設を中心として需要に応じて検討する。運営等については、公共施設等総合管理指針の見直し時期に合わせて検証していく。

## 5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

### 観光施設の整備運営

- ・観光客の増加を図るため、観光ニーズに対応した施設整備を進めます。
- ・おもてなしやサービスの質の向上により、観光客の満足度を高めるような施設運営を推進します。

## 6 平成31年度から平成40年度までの検討計画

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
リニューアル		リニューアル検討中			H35~36 大規模リ ニューアル (10周年)	

## 第2 白馬山麓国民休養地

### 1 施設一覧

#### (1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
高波の池周辺(建物)	9	2	1	2	4		
ヒスイ峡周辺(建物)	6	2		2	2		
計	15	4	1	4	6		

#### (2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

##### 【高浪の池地区（土地）】

代表所在地：小滝 19336 番地

施設名称	設置年(経過年数)	土地面積 m <sup>2</sup>	備考
高浪の池キャンプ場	1978 S53(40)	6,457.8	
遊歩道	1989 H01(29)		359.6m
レイクカート広場	1990 H02(28)	3,770.0	
高浪の池展望台	1990 H02(28)	256.0	
高浪の池駐車場	1991 H03(27)	4,203.6	
多目的広場	2002 H14(16)	3,400.0	
高浪の池グラウンド・ゴルフ場	2006 H18(12)	2,100.0	

##### 【高浪の池地区（建物）】

代表所在地：小滝 19336 番地

施設名称	設置年(経過年数)	構造	床面積 m <sup>2</sup>
高浪の池売店	1978 S53(40)	鉄筋コンクリート造平屋建 ※平15年大規模改修	81.00
高浪の池高原ロッジ	1984 S59(34)	木造2階建	1階 111.21 2階 105.76
レイクカート広場管理棟	1990 H02(28)	木造平屋建	76.00
高浪の池高原交流センター	1994 H6(24)	木造2階建	1階 190.00 2階 138.68
〃 (増築部分)	2012 H24(6)	木造2階建	1階 20.66 2階 17.50
トイレ・シャワー棟	1998 H10(20)	木造平屋建	72.80
高浪の池キャンプ場炊事棟	1978 S53(40)	木造一部鉄筋コンクリート造	2棟 36.60
	2013 H25(5)	鉄筋平屋建て	1棟 64.00

## 【ヒスイ峡地区（土地）】

代表所在地：小滝 19890 番地

施設名称	設置年(経過年数)	土地面積 m <sup>2</sup>	備考
ヒスイ峡キャンプ場	1983 S58(35)	1,300.0	
ヒスイ峡キャンプ場駐車場	1987 S62(31)	1,035.0	
ヒスイ峡フィッシングパーク	1993 H 5(25)	一式	
ヒスイ峡展望台駐車場	1993 H 5(25)	680.0	
ヒスイ峡学習護岸駐車場	1994 H 6(24)	305.0	
ヒスイ峡遊歩道	1994 H 6(24)		182m
	2010 H22( 8)		272m

## 【ヒスイ峡地区（建物）】

代表所在地：小滝 19890 番地

施設名称	設置年(経過年数)	構造	床面積 m <sup>2</sup>
ヒスイ峡展望台	1980 S55(38)	鉄筋コンクリート造	48.50
ヒスイ峡キャンプ場炊事棟	1983 S58(35)	木造	18.06
ヒスイ峡キャンプ場トイレ	1988 S63(30)	木造平屋建	24.00
ヒスイ峡フィッシングパーク管理棟	1991 H 3(27)	木造平屋建（高床式）	30.89
ヒスイ峡フィッシングパーク休憩棟	2010 H22( 8)	木造平屋建	75.00
ヒスイ峡展望台駐車場トイレ	2010 H22( 8)	鉄筋コンクリート造	50.24

## 2 現状と課題

### (1) これまでの施設整備規模、配置状況

#### ① 設置経過

- ・白馬山麓県立自然公園の指定 昭和 34 年 3 月 24 日
- ・国民休養地の指定 昭和 53 年 3 月 25 日（全国で 34 番目、県内で 2 番目）

市では、昭和 51 年から高浪の池トイレ整備及び駐車場造成等の開発に着手し、県においても昭和 53 年から高浪の池キャンプ場管理棟、炊事棟整備及びキャンプ場造成に着手した。

なお、平成 18 年に県から県営施設の譲渡を受けている。

#### ② 整備規模

整備規模を設定していないが、国民休養地としては 10.7 ヘクタールである。。

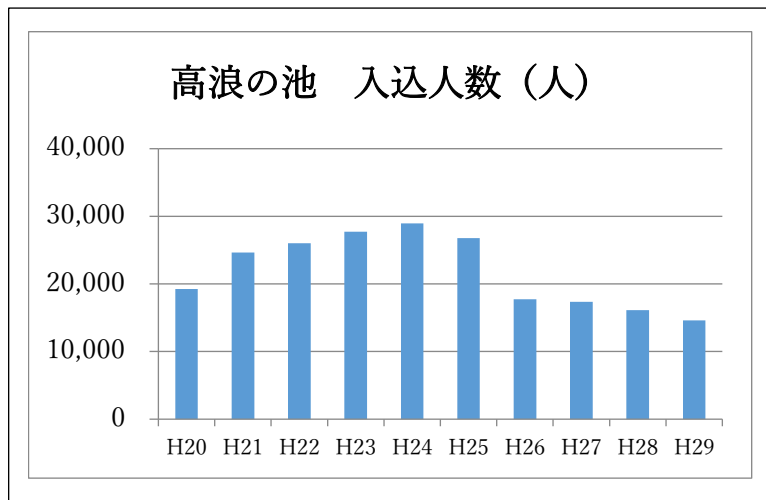
また、高浪の池においてはロッジ、食堂及び売店の整備を行った。ヒスイ峡周辺においてはフィッシングパーク、展望台、遊歩道を整備している。

## (2) 利用状況

ヒスイ峡をはじめ、様々な観光資源を有しており、市内外からの誘客に貢献している。高浪の池の入込については、平成 24 年度の 28,940 人をピークに減少している。

(入込人数)

平成 20 年度	19,236 人
平成 21 年度	24,652 人
平成 22 年度	26,019 人
平成 23 年度	27,744 人
平成 24 年度	28,940 人
平成 25 年度	26,760 人
平成 26 年度	17,720 人
平成 27 年度	17,360 人
平成 28 年度	16,130 人
平成 29 年度	14,610 人



## (3) 課題

当該施設は観光施設であることから、入込客数の増加、観光消費額を増大する仕組みづくり、収支の安定化、定期的な修繕が課題である。

## 3 分析と評価

### (1) 総合管理指針による分析と評価

高浪の池は糸魚川市を代表する観光地であり、ジオサイトの1つである小滝川ヒスイ峡へのアクセスにも休憩地として重要な施設となっている。

運営は、従来から地元の「白馬山麓国民休養地運営協議会」が行っており、現在は指定管理者となって、地元主体の特色ある事業を行っている。

全体を通して、設置目的に合致した利用を行っており、高齢化する地元住民のいきがい施設としても重要な施設となっている。

### (2) 利用者の動向

高浪の池の入込数は、平成 24 年度をピークに減少傾向にあるが、「ヒスイ」が平成 28 年 9 月に日本鉱物科学会において「国石」に認定されたことにより、全国的に「ヒスイ」への関心が高まっている。

高波の池は、小滝川ヒスイ峡へ向かう休憩施設でもあり、入込人数は今後増加することが期待できる。



#### 4 整備方針

##### (1) 建物大規模改修の基本的考え方

建物については、経年により躯体部分の改修が必要となった場合に大規模改修工事を実施する。

##### (2) 園地整備に関する基本的考え方

利用者の安全確保に問題が認められる場合は整備を行う。  
また、誘客に有効な施設及び設備について検討・設置を行う。

#### 5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

##### 観光施設の整備運営

- ・観光客の増加を図るため、観光ニーズに対応した施設整備を進めます。
- ・おもてなしやサービスの質の向上により、観光客の満足度を高めるような施設運営を推進します。

#### 6 平成31年度から平成40年度までの検討計画

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
内容		ヒーリングガーデン高浪をコンセプトに リニューアル工事を検討				

※上記の計画は、平成30年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。

## 第3 親不知ピアパーク

### 1 施設一覧

#### (1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
親不知ピアパーク	2			1		1	

#### (2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	所在地	建築年 (経過年数)	敷地面積 m <sup>2</sup>	延床面積 m <sup>2</sup>
親不知ピアパーク1展示館等	大字外波 903-1	1988 S63(30)	33,000.00	1,924.33
親不知ピアパーク2宿泊所等	大字外波 106	1976 S51(42)	10,620.00	1,125.08
計			43,620.00	3,049.41

### 2 現状と課題

#### (1) これまでの施設整備規模、配置状況

##### ① 設置経過

歌、外波地区の海岸に建設された北陸自動車道高架橋下の空間に、建設に伴う発生土を活用して整備し、平成元年の北陸自動車道開通と合わせてオープンした。

また、平成11年度から第2期造成事業としてレストラン（漁火）と多目的広場を増設している。

ピアパーク山側のログハウス（まるたん坊）は、親不知海水浴場等を訪れる観光客の宿泊施設として平成元年に建設し、平成9年には入浴施設、宿泊施設を兼ね備えた親不知交流センターを建設した。

平成12年からは、親不知交流センターを含めたピアパーク施設一体を、第3セクターの株式会社親不知企画が管理委託制度によって運営し、平成18年度からは指定管理者制度に移行したが、平成22年12月に任意解散することになった。

平成23年1月以降は、運営経験のある地元団体4者が指定管理者となっている。

なお、展示施設の翡翠ふるさと館は市直営施設である。

##### ② 整備規模

親不知ピアパークは、北陸自動車道が日本海に張り出ている高架橋下に設置したもので、狭い空間を利用した全国で珍しい施設のため、エリア面積が33,000 m<sup>2</sup>となっている。

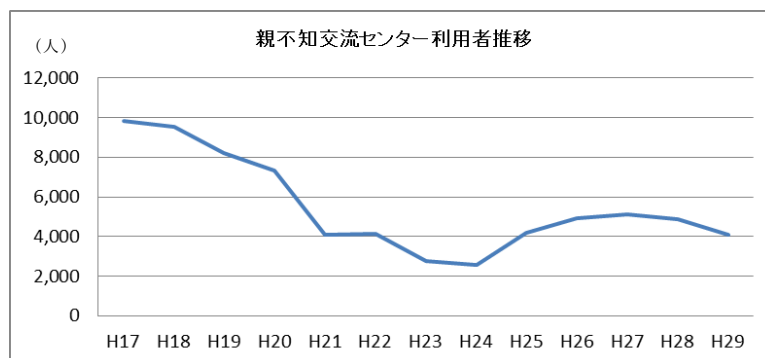
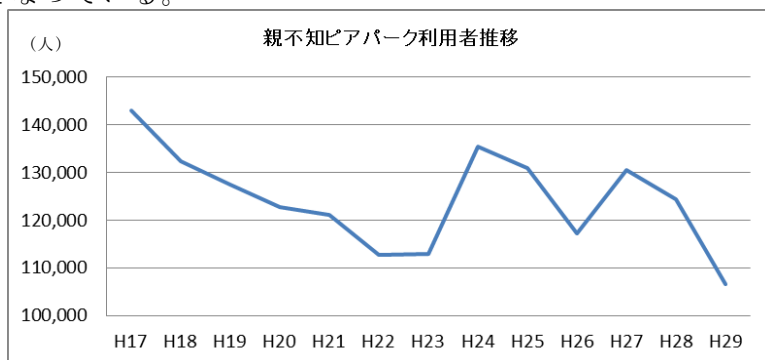
施設名称	建築年 (経過年数)	延床面積 m <sup>2</sup>	構造	階層
親不知ピアパーク 1 展示館等				
レストピア	1989 H1 (29)	227.00	鉄筋コンクリート造	1
おさかなセンター	1991 H3 (27)	198.00	鉄筋コンクリート造	1
漁火	1999 H11(19)	610.98	鉄筋コンクリート造	3
公衆トイレ (西側)	1992 H4 (26)	78.00	鉄筋コンクリート造	1
公衆トイレ (中央)	1988 S63(30)	91.80	鉄筋コンクリート造	1
公衆トイレ (東側)	2006 H18(18)	79.00	鉄筋コンクリート造	1
翡翠ふるさと館	2000 H12(18)	236.00	鉄筋コンクリート造	1
ふるさと体験館	2002 H14(16)	403.55	鉄筋コンクリート造	2
親不知ピアパーク 2 宿泊所等				
ログハウス(まるたん坊)	1989 H1 (29)	286.17	木造	2
親不知交流センター	1997 H9 (21)	710.71	鉄骨鉄筋コンクリート造	2
倉庫、トイレ	1992 H4 (26)	61.00	木造	1
釜場、洗場	1976 S51(42)	67.20	鉄骨造	1

### ③ 配置状況

親不知ピアパークは、北陸自動車道の高架下に整備した施設であるため、当該位置に配置している。

### (2) 利用状況

親不知ピアパークは、近年 11～13 万人で推移し、親不知交流センターは 4,000 人前後となっている。



### (3) 課題

北陸自動車道橋脚耐震補強工事が将来予定されており、工事に伴う各施設の移設等（現施設の取り壊しを含む）の対応が必要となるが、時期が定まっていない。

また、橋脚耐震補強工事実施までに老朽部分の施設修繕や改修を実施するのかどうか、実施する場合は無駄な投資にならないようどのように行うのかなど、精査が必要である。

## 3 分析と評価

### (1) 総合管理指針による分析と評価

ピアパークは、高架橋下に整備した全国的に珍しい施設であり、当市観光拠点の一つになっており、年間11万人以上の集客で、施設営業は概ね良好である。

指定管理者制度の導入と、それぞれ地元団体による特徴ある運営が功を奏している。

なお、施設の建設年はそれぞれ異なっており、定期的な設備等の点検で計画的に修繕を行い、利用者の満足度を高めていかなければならない。

### (2) まちづくりとの関係

設置目的である地域住民と都市住民等の交流という面から、当該地域のまちづくりとの関係性は高い。

施設の指定管理は地元団体等が行っており、人口減少の中で地域振興に寄与している。また、交流センターは地域の避難所として指定されている。

### (3) 利用者の動向

当面、現状で推移するものと考えられるが、将来予定されているピアパーク内の北陸自動車道橋脚耐震補強工事が実施された場合には、施設全体のリニューアルにより、より利用しやすい施設となる見込みであることから、施設利用者は増加すると考えられる。

当該施設は、西の玄関口と言えるので、市内全体への好影響も期待できる。

なお、現在は目前に海水浴場があることから、夏の利用は多く、他の季節は利用が少ないという特徴がある。

## 4 整備方針

### (1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

設置エリアが限られているため、適正規模は設定していない。

施設が分散していて利用者の移動距離があるため、利用しやすい施設とは言えない。

再整備時にはコンパクトで利用しやすい施設が望ましいと考える。

## (2) 整備に関する基本的考え方

近い将来予定されているピアパーク内の北陸自動車道橋脚耐震補強工事に伴い、交流センターを除くすべての施設が移設の対象となるが、人の導線を考慮した各施設の配置及び規模の検討が必要である。

ログハウス（まるたん坊）については、老朽化に伴う大規模改修を実施していくか、親不知交流センターへ集約していくか、利用状況を見て検討する必要がある。

## 5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

### 観光施設の整備運営

- ・観光客の増加を図るため、観光ニーズに対応した施設整備を進めます。
- ・おもてなしやサービスの質の向上により、観光客の満足度を高めるような施設運営を推進します。

## 6 平成31年度から平成40年度までの検討計画

単位：千円

スケジュール						
施設／年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ～ H40
親不知ピアパーク		レストピア おさかなセ ンター 空調更新 8,000	親不知交流セ ンター 照明 LED化 7,700			翡翠ふるさと館 空調更新 10,000

※上記の計画は、平成30年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。

## 第4 権現荘・ゆとり館

### 1 施設一覧

#### (1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
レクリエーション施設・観光施設	4			4			

#### (2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	建築年 (経過年数)	延床面積 ㎡	構造	階層
権現荘	田麦平 26-1	1988 S63 (30年)	4,753.24	鉄骨造 及び鉄筋コ ンクリート造	地上4階建
都市交流促進センター	田麦平 7-2	1995 H7 (23年)	439.44	木造	2階
長者温泉ふぁみりー館	木浦 18778 番地	1994 H6 (24年)	304.69	木造	2階
長者温泉ゆとり館	木浦 18778 番地	1995 H7 (23年)	383.29	木造	2階

### 2 現状と課題

#### (1) これまでの施設整備規模、配置状況

##### ① 設置経過

##### ア 権現荘

旧能生町において、昭和60年に通年観光を目指し、過疎化防止対策として温泉開発調査に着手した。その後、柵口地区の大雪崩により掘削取り止めを検討したが、地域住民の強い要望とともに掘削を開始した。

昭和62年に権現荘（後に権現荘別館→柵口温泉センター（現在廃止）と名称変更）をオープンし、昭和63年8月、柵口温泉の有効利用を図るなかで、広く地域住民各層の活動に供するとともに旧能生町の通年、滞在型観光の拠点として、地域の活性化と総合開発を図る目的で旧上能生小学校を改装し、自然教育センター権現荘本館（後に権現荘と名称変更）としてオープンした。

平成3年には新館（現在の西館）をオープンし、その後、平成9年には都市との交流促進による地域振興を目的に別館（現在の東館）をオープンした。

老朽化した施設のリニューアル工事として、平成26年から27年にかけて、主に本館、新館部分を改修した。

この改修の際、本館宿泊部分を取壊し、自然教育センターとしての役割を廃止した。

平成 29 年度から指定管理者制度を導入している。

#### イ 都市交流促進センター

平成 7 年 1 月に、都市住民との交流を促進により地域の活性化を図ることを目的として、都市交流促進センターを設置した。

1 階は上南地区で昔から栽培、食されてきた「そば」を打ち、食べることのできる「そば道場」となっている。

2 階は昭和 61 年 1 月 26 日に地元柵口で発生し、13 名の犠牲者を出した柵口雪崩を後世に伝える資料や雪崩のメカニズムなど(展示物の一部は県が設置)を紹介した「雪崩資料館」となっている。

そば道場、雪崩資料館ともに最近は年数回程度の利用に留まっている。

#### ウ 長者温泉ゆとり館

能生地域の木浦川上流にある中尾地区に、古くから湧出していたメタケイ酸を含む鉱泉と、空家となっていた茅葺き屋根の古民家を活用することで、過疎化の進む地域の活性化策とするために、平成 6～7 年に国土庁の補助事業により、古民家を宿泊施設に改修し、宿泊・入浴施設を整備して平成 7 年にオープンした。

当初から地元中尾区への管理委託により宿泊・入浴事業を行い、平成 18 年度からは指定管理制度に移行し、継続して中尾区が運営してきた。

平成 27 年度はボイラー燃料経費の増大と利用客減少が相まって、指定管理者の経営を圧迫し、経営継続が困難となって平成 27 年度末に指定管理を終了した。

平成 28 年度からは市直営として日帰り入浴のみの事業を継続している。

※平成 28 年度市直営化し、中尾区へ業務委託。平成 28 年 9 月末で宿泊廃止。

※平成 30 年度からは、新たな任意団体へ委託。

## ② 整備規模

### ア 権現荘

当初の 8 部屋(定員 40 人)から始まり、平成 3 年度の新館増築時は 26 部屋(定員 124 名)、平成 9 年度の別館増築時には 48 室(定員 201 名)、平成 26、27 年度のリニューアル工事後は 30 室(定員 123 名)となっており、利用者の動向を見ながら整備を進めてきた。(宿泊者数定員の算出方法については新潟県旅館業法施行条例により算出)

### イ 都市交流促進センター

建物は 2 階建てで、延べ床面積は 439.44 m<sup>2</sup>、1 階のそば道場は最大 8 鉢(1 鉢 4 人体験)のそば打ち体験と試食ができる規模として、2 階は当地域の雪崩、地滑り災害の資料展示スペースとして整備した。

ウ 長者温泉ゆとり館

自然を活かし、都市住民との交流を推進することで、地域の活性化を推進することを目的とした施設であり、地域で運営を行うことを前提としたうえで宿泊室8部屋(定員24名)、男女浴室、休憩室、食堂を整備したものである。

③ 配置状況

ア 権現荘

市内には温泉宿泊施設(鉱泉を含む)が9軒あり、うち市有の温泉宿泊施設は権現荘1軒のみとなっている。

・市内温泉等の概要

糸魚川地域 7か所(民営)

能生地域 6か所(民営3、公営3)

公営は、長者温泉 ゆとり館(日帰り)

湯の脇温泉 やすらぎ館(日帰り)

柵口温泉 権現荘

青海地域 なし

イ 都市交流促進センター

なだれ資料館とそば打ち体験施設という複合施設は、市内に当該施設だけである。

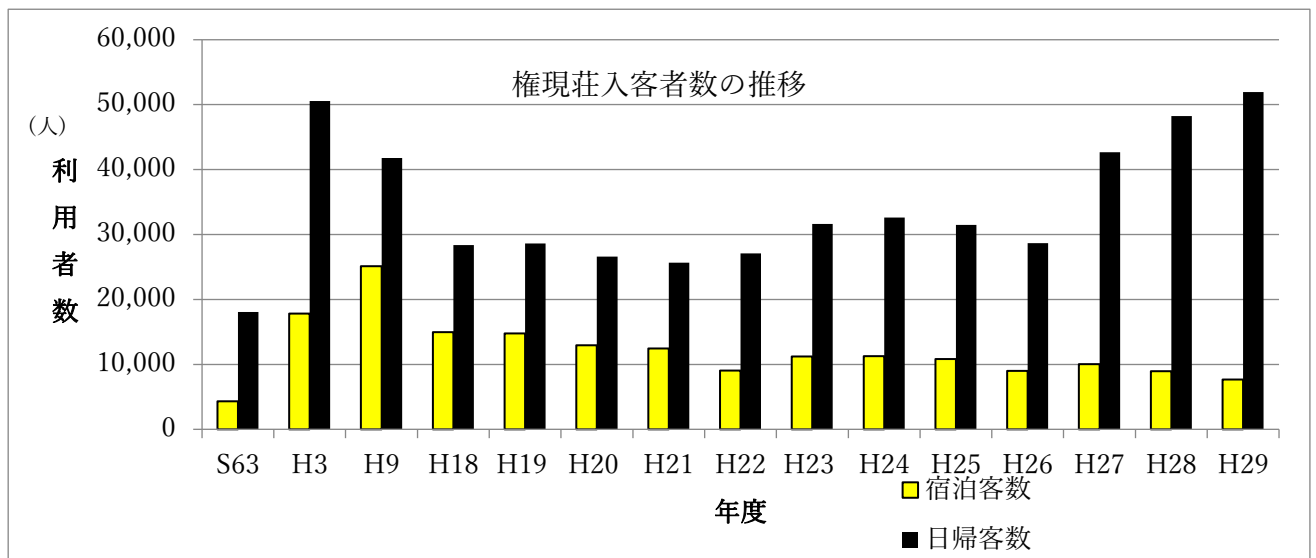
ウ 長者温泉ゆとり館

古民家を利用した温泉施設としては、市内に当該施設だけである。

(2) 利用状況

① 権現荘

平成27年からは、日帰り入浴施設の柵口温泉センターを機能統合したことにより、日帰り客数が伸びている。





② 都市交流促進センター

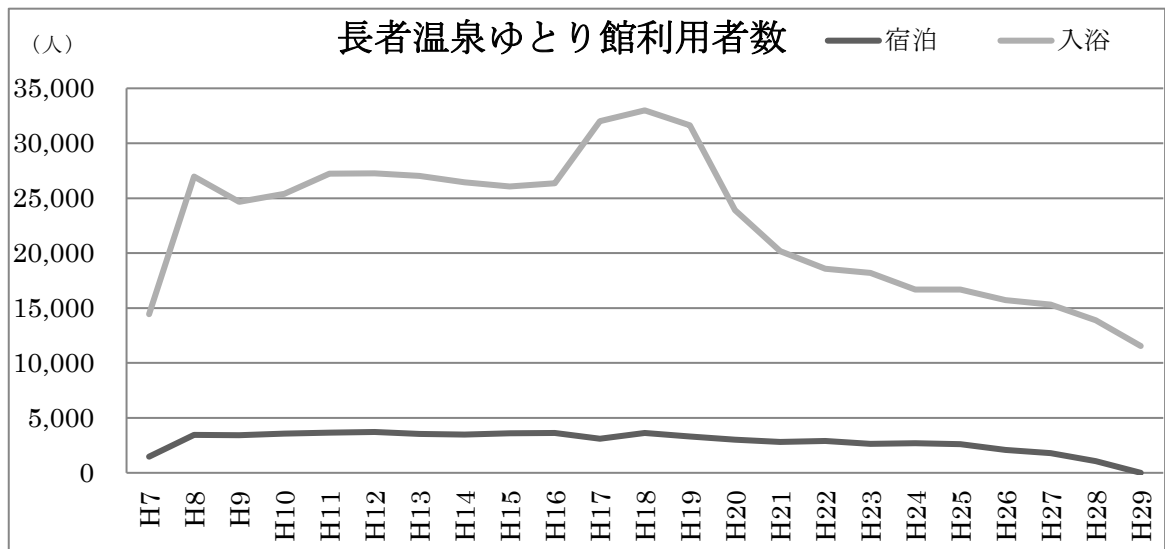
そば打ち体験数は、全体として低調である。

年度	そば打ち 体験鉢数	年度	そば打ち 体験人数
H18	51	H24	14
H19	78	H25	0
H20	44	H26	0
H21	37	H27	18
H22	14	H28	39
H23	17	H29	63

③ 長者温泉ゆとり館

平成7年にオープンし、平成29年度まで地元中尾区への管理委託（平成18年度からは指定管理）により運営してきた。

宿泊は年間3千人前後、日帰り入浴利用者は3万人弱で推移していたが、平成20年度以降は利用者の減少が続いている。



(3) 課題

それぞれ特徴がある施設であり、課題が異なる。

主な課題は以下のとおりである。

① 権現荘

- ・ 指定管理者制度による安定的な運営
- ・ 全体的な老朽化対策

- ② 都市交流促進センター
  - ・そば道場以外の活用方法の検討
- ③ 長者温泉ゆとり館
  - ・全体的な老朽化対策
  - ・民間による運営と利用者の増

### 3 分析と評価

#### (1) 総合管理指針による分析と評価

##### ① 権現荘

地産地消、雇用の場、健康増進、観光を中心とする地域振興の点から、設置目的を果たしており、地域に必要な施設となっている。

平成 29 年度から指定管理者制度を導入し、公共施設等総合管理指針を踏まえた管理運営を行っている。

##### ② 都市交流促進センター

設置当初は多くの利用があったが、年々減少しており、目的は達成されていない。廃止や他用途への転用など、根本的な検討が必要である。

##### ③ 長者温泉ゆとり館

設置は『自然を活かし、都市住民との交流を推進することで、地域の活性化を推進することを目的』として整備した施設であり、今後も木浦地区、中尾区の活性化に必要な施設である。

運営を担ってきた中尾区が高齢化、人口減により運営継続が困難な状況となったことから、新たな運営受託者を募集し、平成 30 年度からは委託先を任意団体へ変更した。

これを機に公共施設等総合管理指針に基づき、より効率的な管理運営となるよう検証を継続する。

#### (2) まちづくりとの関係

##### ① 権現荘

上南地区の核的な施設となっているほか、能生地域のまちづくりにおいても間接的に関係がある。

また、災害時には避難所、寝具の提供などに協力をすることとしている。

##### ② 都市交流促進センター

現状の利用状況では、地域の活性化につながっておらず、まちづくりとの関係性は低いといえる。

### ③ 長者温泉ゆとり館

中尾区の公共施設として中心的な役割を果たしている。

新運営者においては、木浦地区連絡協議会や中尾区の協力を得て運営しており、地域づくりに役立っている。

## (3) 利用者の動向

### ① 権現荘

全国的な国内旅行の動向は、国内人口の減少に伴い、長期的には需要の拡大は期待しにくい状況にあるが、訪日外国人旅行市場の拡大傾向に伴い、外国人客の方も安心して利用できるよう検討し、外国人利用者の拡大に努めたい。

### ② 都市交流促進センター

能生地域に地元のそばが食べられる店がオープンし、地区公民館等でもそば打ち体験を実施していることから、現状の利用方法では今後も利用者は少ないと考える。

また、雪崩資料館については、県から積極的な活用を求められている。

### ③ 長者温泉ゆとり館

平成7年のオープン以来、様々な運営形態をとってきたが、高齢化や人口減少、近隣の類似施設との競合、施設の老朽化、バリアフリー未対応、工事関係宿泊者及び海水浴客の減少等複合的な原因により利用者の減少が続いていたが、平成30年度から新運営団体となりSNS\*を利用した宣伝や新企画の実施、宿泊事業の一時再開などにより利用者は回復傾向にある。

※ SNS ソーシャルネットワークサービス。互いが友人を紹介しあい、新たな友人関係を広げることを目的としたコミュニケーション・サービス。

## 4 整備方針

### (1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

#### ① 権現荘

現在の客室30室を、適正規模としてとらえているが、今後国内人口の減少に伴い、需要の拡大が期待しにくい状況であることから、入込客の推移をみる中で客室を減らすことも検討していかなくてはならない。

全体的に横長の建物であり、管理運営に苦慮する部分がある。現状の利用状況を考慮すると、よりコンパクトな施設についても検討が必要と考え、大規模修繕を検討する際には指定管理者を含めて協議していくこととする。

#### ② 都市交流促進センター

利用者の状況から、そば打ち道場としては過大な施設規模となっている。

廃止を含めた今後の活用方法を検討することとし、再整備を行わないこととする。

### ③ 長者温泉ゆとり館

自然を活かし、都市住民との交流を推進することで、地域の活性化を推進することを目的とした施設であり、現状が適正規模、配置であると考える。

## (2) 整備に関する基本的考え方

### ① 権現荘

権現荘については、能生地域の地域振興の核として運営する。

管理運営形態は、まず指定管理により行うこととし、今後の利用状況などを勘案し、時代に合った方法を検討する。

また、施設の老朽化している箇所については計画的な更新を行う必要があるが、施設全体の中で優先順位をつけ、指定管理者と協議していく。

- ・優先順位は、利用者の安全安心に関わるものから対応していく。
- ・年度の事業費は、平準化するように配慮していく。
- ・大規模改修等は、費用対効果など十分検討のうえ、実施していく。

### ② 都市交流促進センター

廃止を含めた今後の活用方法を検討することとし、再整備を行わないこととする。

### ③ 長者温泉ゆとり館

施設の設置経過から、現施設で運営することとし、運営事業者と協議のうえ、適切な修繕を計画的に行うこととする。

状況を見て、指定管理者制度への移行や施設譲渡を検討していく。

## 5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

### 観光施設の整備運営

- ・観光客の増加を図るため、観光ニーズに対応した施設整備を進めます。
- ・おもてなしやサービスの質の向上により、観光客の満足度を高めるような施設運営を推進します。

6 平成 31 年度から平成 40 年度までの検討計画

【権現荘】

単位：千円

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
内容	指定管理 公募・選定	第 2 期指定管理期間				
	冷暖房設備 更新検討					
	送湯管洗浄 2,500	冷暖房設 備・電気工 事 33,300	冷暖房設備 工事 14,300	冷暖房設備 工事 14,300	冷暖房設備 工事 14,300	
	温泉成分付 着防止策検 討	送湯管洗浄 2,700	送湯管洗浄 4,200			・送湯管洗浄 未定
計	2,500	36,000	18,500	14,300	14,300	

※上記の計画は、平成 30 年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。

【都市交流促進センター】

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
内容	利用方法 検討	用途変更 準備	用途変更			・雪崩資料館展示機械類 の更新

【長者温泉ゆとり館】

単位：千円

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ~ H40
内容	浴室漏水等 修繕 5,000	茅葺き屋根 修繕 25,000	管理運営等 委託費 6,700	管理運営等 委託費 6,700	<div style="border: 1px solid black; width: 100%; height: 100%; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">                     検討中                 </div>	
	新源泉調査 委託費 5,000					
	管理運営等 委託費 6,700	管理運営等 委託費 6,700				
	光熱水費等 8,400	光熱水費等 8,400	光熱水費等 8,400	光熱水費等 8,400		
	施設小修繕 茅葺屋根他 1,500	施設小修繕 茅葺屋根他 1,500	施設小修繕 茅葺屋根他 1,500	施設小修繕 茅葺屋根他 1,500		
計	26,600	41,600	16,600	16,600		

※上記の計画は、平成 30 年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。

## 第5 グリーンメッセ・大平やすらぎ館

### 1 施設一覧

#### (1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
グリーンメッセ能生	1		1				
大平やすらぎ館	1		1				
計	2		2				

#### (2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	代表所在地	設置年（経過年数）	面積	
グリーンメッセ能生	島道 1263-1	1999 H11(19)	土地	全体約 31.3ha
大平やすらぎ館	島道 1263-1	1999 H11(19)	建物 木造 土地	82.81 m <sup>2</sup> 全体約 9.0ha

### 2 現状と課題

#### (1) これまでの施設整備経過、整備規模等、配置状況

##### ① 設置経過

若者定住促進等プロジェクト事業の中でシャルマン火打スキー場の夏場施設として島道地区大平に大平グリーンパーク（ショートゴルフ場等）整備事業を行った。

また、関連事業では、自然体験や農林業体験等の拠点施設として入浴も楽しむことができる体験交流施設「大平やすらぎ館」が整備された。

ショートゴルフ場は、「自然」と「健康」のメッセージを全国に発信しようとする思いを込めて「グリーンメッセ能生」という名称になった。

これらの施設の管理運営について、スキー場と併せて、町直営方法のほかに第3セクターによる運営方法についても検討し、結果、平成10年4月に設立した第3セクターの火打山麓振興株式会社が運営することになり、指定管理者となって現在に至っている。

##### ② 整備規模

大平グリーンパーク整備事業として、以下のとおり整備した。

- a 計画地区 平、島道、榎、藤後地区
- b 事業年度 平成10年度～平成11年度
- c 区域面積 約31.3ha
- d 施設概要 ショートゴルフ場 9ホール
- e 事業費 約7億1千万円

### ③ 配置状況

ゴルフ場としては、市内に民営1か所、公営1か所の2か所となっている。

- ・糸魚川地域 1か所 民営 糸魚川カントリークラブ
- ・能生地域 1か所 公営 グリーンメッセ能生
- ・青海地域 なし

温泉施設としては、市内に13か所である。

- ・糸魚川地域 民営7か所

糸魚川温泉	ホテル国富アネックス
糸魚川温泉	ひすいの湯（日帰りのみ）
塩の道温泉	ホワイトクリフ
雨飾温泉	雨飾山荘
姫川温泉	ホテル国富翠泉閣
蓮華温泉	白馬岳蓮華ロッジ
笹倉温泉	龍雲荘
島道鉱泉	
柵口温泉	対岳荘
柵口温泉	山城屋
湯の脇温泉	やすらぎ館（日帰り）
長者温泉	ゆとり館（日帰り）
柵口温泉	権現荘

- ・能生地域 民営3か所

- 公営3か所

- ・青海地域 なし

### (2) 利用状況

#### ① グリーンメッセ能生・大平やすらぎ館

利用状況は減少傾向にある。

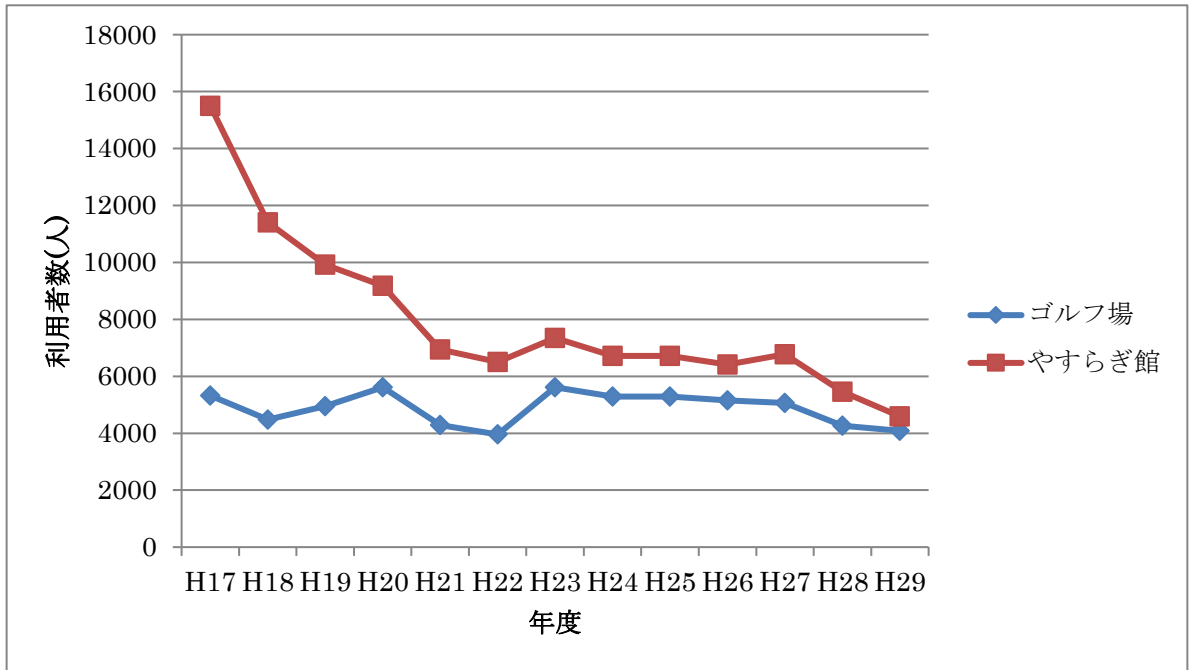
ショートゴルフ場の月別利用状況は、融雪の影響を受け、オープン時期の遅れや、梅雨の状況などの天候に大きく左右されている。

また、ゴルフ人口がバブル経済期のときに比べ減少してきており、イベント等により若者や女性の利用者への普及活動が必要となる。

温泉施設は、ショートゴルフ場の利用者が主となっており、夏場にかけて海水浴客等の利用者が増加している。



グリーンメッセ能生（ゴルフ場）・やすらぎ館利用者数



※1 シーズンは、4月のプレオープンから11月下旬頃までの間をいう。

(3) 課題

グリーンメッセ能生の利用は、地理地形から一般的なゴルフ場と比較して天候の影響を受けやすく、以下の課題が挙げられる。

- ・天候の影響を受けにくい安定した経営方法の模索
- ・営業活動と広告宣伝、情報発信の充実
- ・老朽化施設及び備品の改修、更新
- ・ゴルフ場内の敷設配管等の改良と鳥獣被害による芝生の管理
- ・鉱泉及び自然水（芝生への散水及び飲料水用）の安定的な確保

大平やすらぎ館は、グリーンメッセ能生との一体利用が主となり、以下の課題が挙げられる。

- ・ゴルフ場利用者以外の利用客確保
- ・引湯管等の施設維持管理

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

グリーンメッセ能生は、これまで、施設の設置目的と、地域振興、またスキー場従業員の夏場の雇用場所として、効果を発揮してきた施設である。

一方、今後の人口減少を考えた場合に、市営のゴルフ場が必要かどうかの根本的な再検証が必要と考える。

現在は、指定管理者制度により民間で運営している。

大平やすらぎ館は、ゴルフ場の入浴施設としても利用があるが、能生地域には他にも

温泉施設があり、将来を見据えて必要かどうかの再検証を行う時期が来ている。

## (2) まちづくりとの関係

まちづくりの観点では関係は薄いと考えるが、通年雇用を通じた間接効果は大きい。

このことが、能生地域における海と山の観光の一体化、地元就労、地産地消、都市部との交流等、地域社会、経済への効果が認められる。

## (3) 利用者の動向

若者世代の人口流出、人口減少及び高齢化の影響で、利用者は減少傾向にある。

なお、市外利用者は上越市、新潟県内、富山県からの来場者が多い。

ショートゴルフ場ということで、18ホールコースとは異なり、初心者若しくは練習での利用、地元の高齢者の方々が多く利用されている。

## 4 整備方針

### (1) 適正規模、適正配置の基本的考え方

ショートホールのゴルフ場としては、現在の規模が標準的で適正規模と考える。

なお、施設設備等が老朽化により更新時期を迎えており、今後は利用者が大きく増える見込みが薄いことから、配置について検討を要する施設である。

### (2) 整備に関する基本的考え方

現在は指定管理者とともに施設を管理運営しており、適切な管理運営を行っていく。

なお、人口減少傾向から当該施設の利用者が減少しており、施設存続判断の分岐点が近いと考えられる。

よって、大規模修繕などの大きな投資が必要となる時期に、根本的な施設のあり方を検討することとする。

## 5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

### 観光施設の整備運営

- ・観光客の増加を図るため、観光ニーズに対応した施設整備を進めます。
- ・おもてなしやサービスの質の向上により、観光客の満足度を高めるような施設運営を推進します。

6 平成 31 年度から平成 40 年度までの検討計画

単位：千円

スケジュール						
年度	H31	H32	H33	H34	H35	H36 ～ H40
内容	ホール排水 管改修工事	ホール排水 管改修工事	ホール排水 管改修工事	ホール排水 管改修工事	ホール排水 管改修工事	新水源（散水・飲料水用） 整備
	バンカー 排水修繕	バンカー 排水修繕	バンカー 排水修繕	バンカー 排水修繕	バンカー 排水修繕	ボイラー等更新
	芝刈機等 備品修繕	芝刈機等 備品修繕	芝刈機等 備品修繕	芝刈機等 備品修繕	芝刈機等 備品修繕	土壌改良（鳥獣被害芝等入 替）
	芝刈機等管 理備品更新	芝刈機等管 理備品更新		芝刈機等管 理備品更新	芝刈機等管 理備品更新	ティグラウンド改良  （乗用カート入替）
	施設等修繕 業務委託 （芝等）	施設等修繕 業務委託 （芝等）	施設等修繕 業務委託 （芝等）	施設等修繕 業務委託 （芝等）	施設等修繕 業務委託 （芝等）	
計	3,300	6,500	3,500	6,500	6,500	

※上記の計画は、平成 30 年度における総合計画実施計画や予算編成等の調整前の検討資料である。

## 第6 キャンプ場、森林公園及び観光施設

### 1 施設一覧

#### (1) 施設総括表（平成30年4月1日現在）

区分	施設数	経過年数別の施設数					
		～10年	～20年	～30年	～40年	～50年	51年～
キャンプ場	3	1		2			
森林公園	3		2	1			
観光施設	6		1	4	1		
計	12	1	3	7	1		

#### (2) 施設の詳細（平成30年4月1日現在）

施設名称	所在地	建築・整備年 (経過年数)	構造	公園面積㎡ 延床面積㎡
キ 須沢オートキャンプ場	須沢 2052-118	2016 H28(2)		2,650
キ 美山キャンプ場	大野 74-7	1988 S63(29)		16,500
キ 荒崎キャンプ場	能生小泊 2739-1	1989 H元(29)		7,021
森 海谷三峽パーク	御前山 662	2002 H14(16)		2,845
森 雨飾山麓しろ池の森	大久保 922	2003 H15(15)		1,450,000
森 不動滝いこいの里	大谷内 2169	1996 H8(22)		7,782
観 山小屋(白鳥山頂避難小屋)	橋立 2-1	1998 H10(20)	木造	37.00
観 山小屋(麻尾山三角小屋)	橋立 23-2	1988 S63(30)	木造	20.00
観 びびら浜海水浴場トイレ	藤崎 1-2 地先	1994 H4(26)	ブロック造	39.06
観 藤崎海水浴場トイレ	藤崎 1118、1119 地先	1987 S62(31)	鉄筋コンクリート造	13.56
観 百川海水浴場トイレ	百川 3697-7	1994 H6(24)	ブロック造	39.06
観 能生海岸トイレ	能生 7237-46	1991 H3(27)	鉄筋コンクリート造	40.89

### 2 現状と課題

#### (1) これまでの施設整備規模、配置状況

##### ① 設置経過

##### ア 須沢オートキャンプ場

平成28年8月にオートキャンプ場を整備、29年にはオートキャンプ場内にトイレを設置し、利用者の利便性の向上を図ってきた。

##### イ 美山キャンプ場

旧糸魚川市では、施設が美山公園に集中していたことから、スポーツ等を通じた健康増進と交流促進を図ることを目的に、一体的に整備した。

ウ 荒崎キャンプ場

マリンドリーム能生などの公園開発とともに、一体的に整備した。  
トイレや管理棟が老朽化し、平成 29 年度に改修している。

エ 海谷三峽パーク

林業地域総合整備事業を活用して整備した。西海地区自治振興協議会が指定管理者制度による施設運営を行っている。

オ 雨飾山麓しろ池の森

住民参加型生活環境保全林整備事業を活用して整備した。雨飾山をはじめとする山々の眺望と、塩の道を中心とした歴史的背景を持った森林公園である。  
雨飾山麓しろ池の森管理組合が指定管理者制度による施設運営を行っている。

カ 不動滝いこいの里

山村振興特別対策事業を活用して整備した。不動滝管理組合が指定管理者

制度による施設運営を行っている。

キ 山小屋

白鳥山頂避難小屋は、北アルプスから日本海へ繋がる登山路「梅海新道」を守る地元山岳会の要望から平成 3 年に建設した。その後、一度火災により焼失したため平成 10 年に再建している。

② 整備規模

ア 須沢オートキャンプ場

未利用地をオートキャンプ場として整備したものであり、規模設定をしていない。

オートキャンプ場炊事場 延床面積：13.24 m<sup>2</sup> 構造：木造平屋

オートキャンプ場トイレ 延床面積：7.59 m<sup>2</sup> 構造：ユニットトイレ

オートキャンプ場 15 サイト

イ 美山キャンプ場

ウ 荒崎キャンプ場

エ 海谷三峽パーク

オ 雨飾山麓しろ池の森

カ 不動滝いこいの里

イからカについては、同様に規模設定していないものであり、周辺状況を参考に整備している。

ク 山小屋

避難小屋であるため、10人程度が寝泊りできる2階建ての建物である。

(2) 主な施設の利用状況

ア 須沢オートキャンプ場

平成28年度 696人（8月オープン）

平成29年度 2,886人

イ 美山キャンプ場

平成28年度 1,282人

平成29年度 2,486人 年度によって差があるが、概ね1,200人で推移。

ウ 荒崎キャンプ場

平成28年度 1,593人

平成29年度 1,502人

エ 海谷三峽パーク

平成28年度 3,465人

平成29年度 2,878人 年度によって差があり、概ね3,000人で推移。

オ 雨飾山麓しろ池の森

平成28年度 2,244人

平成29年度 2,109人

カ 不動滝いこいの里

平成28年度 3,520人

平成29年度 2,070人

キ 山小屋

年間約4,000人の利用がある。

ク 能生地域トイレ

平成29年度7月から8月トイレ利用者数（海水浴場入込客数からの推計）

・びびら浜海水浴場トイレ 1日あたり 50名

・藤崎海水浴場トイレ 1日あたり 50名（平成30年度から休止）

・能生海岸トイレ 1日あたり 830名

・百川海水浴場トイレ 1日あたり 50名

(3) 課題

主な課題は共通して利用者の安全確保であり、適切な維持管理を行う必要がある。

3 分析と評価

(1) 総合管理指針による分析と評価

それぞれ、レクリエーション・観光施設としての目的を果たしている。

今後の人口減少において社会情勢が変化することが想定されるが、来市する観光客が利用する誘客用施設である。

## (2) まちづくりとの関係

それぞれ、まちづくりとの関係は高くはないが、緊急時の集合場所としての利用が可能である。また、山小屋においては、交流の場としても効果が期待される。

## (3) 利用者の動向

### ア 須沢オートキャンプ場

県内外からの利用者にも好評で、オープン2年目で利用収入が1,300千円を超えるなど、今後も利用者増加が見込まれる。

### イ 美山キャンプ場

美山公園内にあることから、安定的である。

### ウ 荒崎キャンプ場

平成27年度からは1,500人前後で推移している。

オートキャンプ場でもなく、バンガローなどの施設も無いが、海岸やマリンドリーム能生が近いことから、利用が安定し、リピーターが多い。

平成30年2月にマリンドリーム能生内にコンビニエンスストアがオープンし、同3月に温水シャワーを完備したトイレ兼管理棟を整備したことから、利用が増加すると見込んでいる。

### エ 海谷三峽パーク

### オ 雨飾山麓しろ池の森

### カ 不動滝いこいの里

エからカは、今後、人口減少や少子高齢化やレジャーの多様化などにより、森林公園の利用者は減少傾向にある。

### キ 山小屋

親不知から北アルプスまで縦走する登山者の中継点としての利用が見込まれる。

### ク 能生地域トイレ

海水浴客があり、天候に左右される。

## 4 整備方針

### (1) 適正規模、適正配置及び整備に関する基本的考え方

設置経過を踏まえ、過大にならないよう配置する。

キャンプ場やトイレは、需要に応じた整備を行い、森林公園は当面新設しないこととする。

老朽化し、大規模改修を必要とする時期が来たときは、誘客数の動向や近隣の施設状況を勘案し、それぞれ判断することとする。

## 5 その他

第2次糸魚川市総合計画の施策の方向は、以下のとおりである。

### 観光施設の整備運営

- ・観光客の増加を図るため、観光ニーズに対応した施設整備を進めます。
- ・おもてなしやサービスの質の向上により、観光客の満足度を高めるような施設運営を推進します。

## 6 平成31年度から平成40年度までの検討計画

現時点では、整備計画なし。